数値予報が変えた防災気象情報

NHK解説委員 山﨑 登 =

2017 • 1 • 28

見えないものを見えるように(1)

台風報道(昭和の終わり頃)

- ▶ ボードの日本地図
- 台風情報 位置を貼り付けたり 進路予測や暴風域を手書きしたり





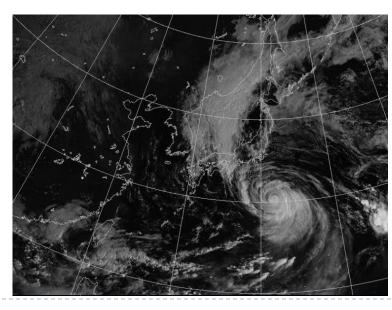
昭和57.9.12 台風第18号解説 (気象庁提供)

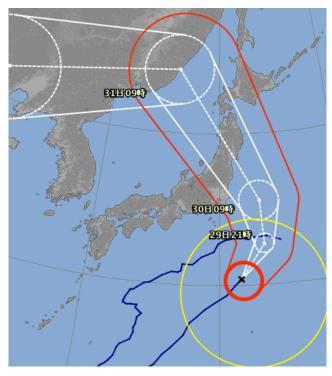
見えないものを見えるように ②

現在の台風報道

可視化の効果は歴然

- 数值予報
- 気象衛星
- CGの活用

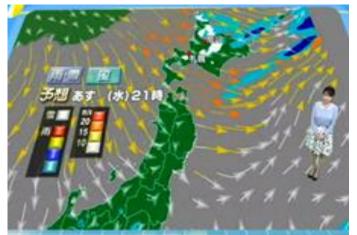




台風10号(2016年8月29日9時·気象庁提供)

見えないものを見えるように ③

風の予測

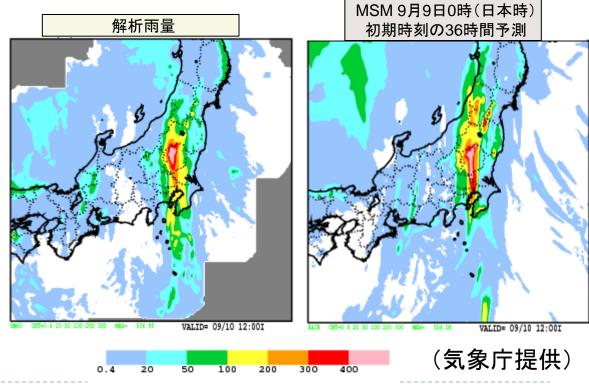


NHKテレビから

見えることは わかりやすい

雨の予測

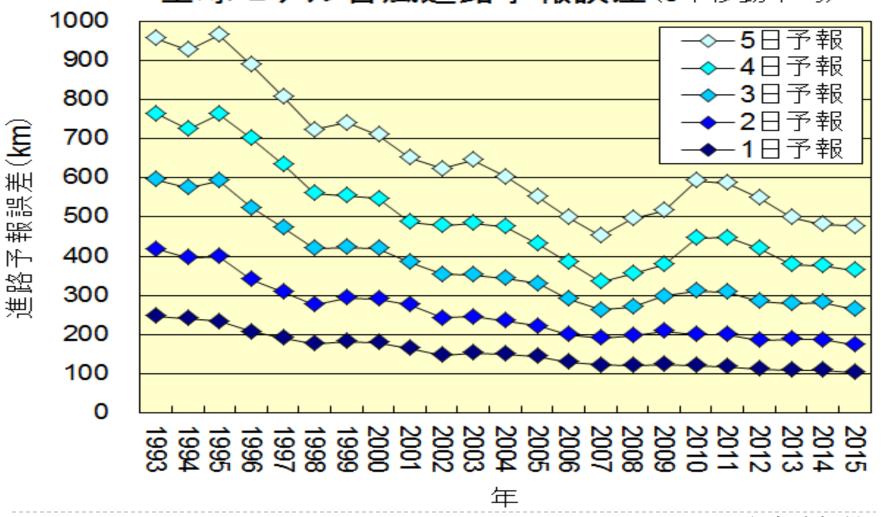
平成27年9月関東・東北豪雨予測 平成27年9月10日12時(日本時)までの24時間積算降水量





背景にある台風予報精度の向上

全球モデル台風進路予報誤差(3年移動平均)



数値予報の課題と期待 ①

土砂災害警戒情報

<u> 竜巻注意情報</u>

災害発生率(H20年~23)

竜巻が発生した適中率(H20年~24)

平均で3.5%

平均で5.2%

(災害補足率 平均で75.1%)

(補足率 平均で28.8%)

▶ 科学の限界を踏まえた上で情報を防に生かす

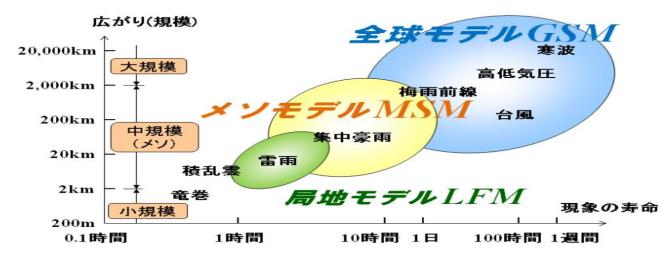


情報を出す側と受ける側のコミュニケーション (情報リテラシーを高める)



数値予報の課題と期待 ②

数値予報モデルで予測する気象現象



- ▶ 自治体の防災のレベルを上げるために
 - タイムライン防災(事前防災)
 - ⇔ ピンポイントの中長期予報の精度の向上
- わかりやすい情報のために
 - 観測史上初めての現象の増加
 - ⇔ 地球温暖化の進展

正確でわかりやすい予報は防災につながる



名古屋市南区の被害と在朴で壊れた住宅 (伊勢湾台風50年事業実行委員会)

災害 報道

- ▶ 伊勢湾台風まで(昭和34年)
 - ・被害の取材・報道に重点



- 伊勢湾台風以後
 - •テレビカメラを初めて気象庁に
 - 台風の進路 勢力の予測
 - ・警戒・防災の呼びかけ

結果報道から予報報道へ



ありがとうございました。

